



3

後援会だより

March 2014 Vol. 23

保育フェスティバルを終えて

保育科 守川 美輪

10月26日(土) 本学交流センター及び、11月30日(土) イオンモール宮崎イオンホールで開催された保育フェスティバルには、計527名の来場者がありました。地域の方々はこの催しの良さや楽しさが伝わってきており、期待もされていることを感じています。参加者から「子どもが帰りたくないとだだをこねたので、とても楽しかったのだと思います。」「学生の方々の心のこもった遊びとおもちゃなどが手作りで用意されていて感動しました。」など感想を頂きました。今後も、保育フェスティバルで学生たちが力を発揮できるように支援してまいります。



保育フェスティバル

現代ビジネス科の新たな取り組み

人間文化学科長(現代ビジネス科長) 久保 良一

現代ビジネス科の使命は、現代のビジネス社会に果敢に挑戦し生き抜く力と高い実践力を持った人材を育てることです。本学科は、実学教育を実施することによって「即戦力」の育成を目指すビジネスコースと、医療知識と事務能力を備え、医師や看護師などの医療専門スタッフがその機能を十分に発揮できるようにサポートする業務に携わる事のできる医療事務・医療秘書コースがあります

学生たちは将来この厳しい現代社会に正面から向き合っていくか悩まなりません。そのために現代ビジネス科では、次の内容に取り組んでいきます。

①実学を取り入れたブロック・ユニット型教育課程(宮学ブランド基本ブロック、形成ブロック、オプションブロック・実務ブロック)を編成し、「人間力」「専門力」「教養力」の総合力の育成を目指します。

②情報社会への対応として、学生一人1台、授業や自宅学習に活用するためのタブレット端末を貸与します。情報社会の中で、「即戦力」として活躍できる手立てを取ります。

③1年の入学時からキャリア指導教育を行っています。1年前期の科目「キャリアガイダンスI」で進路学習を行い、後期の科目「キャリアガイダンスII」ではSPI2を公開しています。これにより就職試験向けの準備体制ができ、学生が不安感を持たずに受験できるようになります。

④常に学生と話す、これらの積み重ねによって教員と学生の絆(信頼関係)が深まっていく心の教育を行っています。

現代ビジネス科は、学生の「質の保証」をキーワードに全力投球で取り組んでまいります。

卒業式のご案内

卒業式は、学位記・修了証書授与式という形で3月19日(水)10時より体育館で行われます。多数の保護者の参列をお待ち申し上げます。式終了後、卒業生は教室に分かれて学級主任から証書等を受け取りますが、どうぞ保護者の方も教室にお入り下さい。

後援会・保護者会のご案内

後援会総会は、4月7日(月)入学式終了後、11時より体育館で行われます。決算・予算の承認、役員を選出を予定しています。多数ご参加下さい。

保護者会は、2年生は5月31日(土)、1年生は10月18日(土)に行う予定です。改めてご案内を差し上げますが、全体会・学科会・学級主任との面談という流れで実施されます。どうぞ奮ってご参加下さいませようお願い申し上げます。

春のオープンキャンパスのご案内

平成26年3月9日(日) 9:30~12:30

体験授業、学生の作品展示、学内ツアーの他、入試相談コーナーも開設! 本学に興味をおもちの方ならどなたでも大歓迎です。JR宮崎駅東口、南宮崎駅、清武駅から無料送迎バスも運行。お気軽にご参加ください。

詳細は入試広報部直通フリーダイヤル0120-310-796までお問い合わせ下さい。



現在の就職状況

企業は厳選志向が続くなか、求人状況は若干良くなっており、本学の内定状況も昨年度に比して良い状況と言えます。また、保育園・幼稚園・施設等は昨年度同様に求人数も多く、年内に殆どの就職希望者が内定している状況です。

学長所感

二本の旗印、礼節・勤労、そして、明るく・元気に

学長 山下 忍

この頃胸中に一層強くあるのは、これまで以上に旗印を高く掲げながら一日一日を送ってきたいという思いです。

掲げておきたい旗印は二本です。その一本は、もとより健学の精神「礼節・勤労」を骨太に書き記した幟です。

もう一本はどうか。それは、「明るく・元気に」の言葉を、「礼節・勤労」に負けない力強さで書きあげた幟です。

新たな年を迎えて以降、この二本の旗印は、はたはたと大きくはためきながら、この身に厳しく迫ってきます。

ところで、二本の幟に記された四つの言葉は、見ようによっては何の変哲もないごくごくありふれた言葉です。だけど私は、以前にも増してこの四つの言葉、「礼節」、「勤労」、「明るく」、「元気に」に、大きな意味と大変な重みを感じます。この四つの言葉を大事にし、この四つの言葉に恥じない生き方を求めれば、人生を誤ることはないのだとさえ思われるのです。

現に、何かの折に、「あなたは礼節に恥じない生き方をしていますね」と言ってもらったとしたら何と嬉しく有難いこと

か。また、「あなたは時間を疎かにすることなく、なすべきことをしっかりとやり遂げるべく努力していますね」と言われたとしたら、これまた、何と誇らしいことか。そしてまた、「あなたは健康に留意し、明るく、元気に一日一日を過ごしていますね」と言われたら、これもまた、何と心おどることか。

私は、私自身に対して、もうちょっとしっかり生きてらどうかと鞭を当てていますが、本学において共に過ごしている若者たちにも、もうひとふんばり頑張ろう、もうちょっと努力しよう、と思いをかけ続けています。

私は、人間、特に若者は、限りのない可能性を有していると心底思っています。若者は間違いなく無限の可能性と、無限のエネルギーを持った存在なのです。

そうした若者たちと、「礼節」、「勤労」、「明るく」、「元気に」の旗印のもと、まさに「闊歩」と称すべき一日一日を送っていききたい。この頃は、しきりにそう思っやまないのです。



この1年を振り返って

この一年を振り返って

音楽科長 末平 浩康

この一年、スポーツ、特にプロ野球で脚光を浴びた選手を挙げれば、楽天の田中投手です。数々の栄誉ある賞を獲得した田中投手に、「このような大記録を打ち立てたあなたは、山に例えれば、今何合目に位置すると思いますか?」とのインタビューに、彼は、「頂上が分からないので何合目かわかりません」と答える。さらに、「頂上はどこだと思いますか?」との質問に、彼は、「頂上は、僕が野球を辞める時です。」と答えていました。

私たち音楽をする者にとっての“頂上”とは何なのでしょう?コンクールで賞を取ること、演奏がうまくなること、人を感動させること…?

そんなに近くに頂上があるようには思えませんね。音楽に携わった者のそれは、本当に音楽のすばらし

さや奥深い真の音楽の意味を追求していく彼方先に“頂上”があるのかもしれませんが。

音楽科1、2年そして専攻科生全部が最後に揃った25年度が終わろうとしています。ここを巣立った卒業生や在學生、そしてその音楽は、永遠に歌い続けられていくはずで



1年をふり返って

初等教育科長 黒木 國泰

初等教育科(以下初教と呼ばせていただきます)最後の新生を迎えて、はや1年が経過しました。初教の1・2年生は、日頃の勉強や教育実習、スクールトライアル、介護等体験での奮励はもとより、全学的新生入学前スクーリングや春・秋の忍ヶ丘祭、一斉清掃での頑張り、学友会活動など様々な場面で主体的にリーダーシップを発揮してきました。すべての教職員が感動を覚えているところであり、賞賛に値するものです。

また過年度卒業生たちの教員採用試験合格のうれしい知らせを受けました。宮崎県の小学校教員採用試験に、昨年度25年春の卒業生を含めて6名、一昨年の卒業生が横浜市、さらに今春の年賀状で古い友人の卒業生から熊本市の教員採用試験に合格の知らせが入りました。合わせて8名の新規採用者が26年度に教壇に立つことになります。

27年3月で初教は約半世紀の歴史の幕を閉じることとなります。幸いにも文科省・厚労省の認可を受け、

新たに保育士、幼一・種免、小一・種免の教育課程をもつ宮崎国際大学教育学部が26年4月に出発し、初教の伝統が継承発展されることになりました。卒業生の皆さん、どうぞ忍ヶ丘キャンパスに遊びにおいでください。歓迎いたします。



保育は育ちあい

保育科長 野坂 敬

保育士になりたいと願い本学を希望し、入学してくる学生の多さに、伝統に支えられた本学の保育科への高い信頼と期待の大きさを感じています。

こうした熱い期待に支えられながら、本年度も、まどめの時期に差し掛かり、2年生では、多くの学生の就職が決まり、卒業を迎えるばかりになっています。その一人ひとりの頑張りを眺めてみると、その中には、2年間の学生生活のなかで、保育士としての適性や健康面、学費、友人関係等々、様々な悩みを持ちながらも、それを乗り越えて保育士を目指し、今を迎えている学生も数多くおります。それぞれに夢を持ち、夢をかなえるために過ごした2年間、様々なドラマが生まれて、今があるわけです。その間には、同じ保育士を目指す者同士の助け合い、育ちあいがあったことを見逃すことはできません。また、様々な不安を持

ちながらも本人、担任、保護者との共同作業で様々な壁を乗り越え、最終学年で実習先から「こんな成長を見せていただいて感謝です」とうれしい言葉を頂いた時、喜びと同時に、保育は、ともに育ち合うことであることを実感しました。



努力したこの1年!

人間文化学科長 久保 良一

平成25年度も、一歩、一歩、学習・生活面そして進路面で努力した1年と感じています。多くの学生が、資格検定取得、就職試験などに挑戦しました。その結果、努力が報われてそれぞれの資格検定取得や就職内定を勝ち取っています。ここには、日頃の教育活動の中で、「決してあきらめない心」を持って努力している姿があります。現在、唯一「キャリア教育」の重要性が言われていますが、九州の大学、短期大学の中で、必修科目として実施しているのは本学科だけです。1年前期の科目「キャリアガイダンスI」で、各自の自己実現のキャリアを学び、後期の「キャリアガイダンスII」では、SPI2を学習しました。さらに、学科教員でキャリア指導を行い就職試験に向けて教員と学生が一体となり努力しました。学生がこのような努力ができた源は、学生は自分の目標を見据え、それに向かってゆく力を持っているからです。例えば、「即戦力」を目指して取り組んだ「簿記」「日本語ワー

プロ」「秘書技能」検定合格100%もその証したと思います。

人間文化学科は平成26年度入学生から、「現代ビジネス科」に名称変更になります。今まで培ってきた人間文化学科の教育を継承しながら新学科作りに精進したいと思いますので、今後ともなにとぞご指導・ご助言いただきますようよろしくお願いいたします。

